

草原のタカ、チュウヒとは

～サロベツのチュウヒを知ろう～

2018年10月13日(土) 14:00-16:30

サロベツ湿原センター 天塩郡豊富町上サロベツ 8662

開会

14:00

司会 田中美恵子 (NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク事務局長)

挨拶・説明

14:05-14:15

チュウヒの保全の考え方 (国内種・ガイドライン)

有山義昭 (稚内自然保護官事務所首席自然保護官)

講演

14:15-14:45

・写真で見るサロベツのチュウヒ

富士元寿彦 (動物写真家)

14:45-15:15

・中部地方のチュウヒの繁殖状況と保全

平井正志 (日本野鳥の会三重支部長)

15:15-15:45

・サロベツ周辺のチュウヒの繁殖状況と保全上の課題

長谷部真 (NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク)

休憩 (質問用紙等回収)

15:45-15:55

対談

15:55-16:30

・サロベツのチュウヒの保全に向けて

コーディネーター 有山義昭

対談者: 富士元寿彦 平井正志 長谷部真

閉会 16:30

講演要旨

写真で見るサロベツのチュウヒ

富士元寿彦（動物写真家）

サロベツでは毎年 7 月下旬頃になると、無事に巣立ったチュウヒの幼鳥たちの姿が見られるようになります。幼鳥は、親の運んで来た餌を空中で受け取る「巣外給餌」や、飛行訓練をして次第に巧みに飛べるようになります。

空中での餌の受け渡しや、狩りの様子を連続写真で紹介する他、手頃な土や草の塊を使い遊んでいるようにも見える獲物を捕まえる練習、オジロワシへのモビング（擬攻撃）、逆にコウノトリからのモビング等、サロベツに生きるチュウヒの姿を紹介します。



チュウヒ幼鳥とオジロワシ親子



地上で休息する若鳥オス



上空を舞う幼鳥



空中での給餌

中部地方のチュウヒの繁殖状況と保全

平井正志

(日本野鳥の会三重支部長)

本州でのチュウヒの繁殖はごく限られている。

東北では青森県、太平洋岸の仏沼と秋田県八郎潟干拓地で繁殖が知られている。八郎潟では 2014 年に 14 つがい、2015 年には 16-17 つがいが記録されている (高橋 2018)。また、仏沼では 2017 年に 7 年ぶりに繁殖が成功し、1 羽のヒナが巣立った (Web 東奥 2017/11/17)。

関東以西で、現在も継続して繁殖しているのは石川県である。石川県では 20 羽程度のヒナが毎年巣立っている。石川県には平野部にいくつかの湖、沼がある。ここでの繁殖の問題点は野鳥カメラマンである。巣の近くに長時間、陣取るので、抱卵、育雛が困難になる。

三重県と愛知県にまたがる木曾岬干拓地 (443 ha) では 2002 年からチュウヒの繁殖が記録されている。おそらくそれ以前にも繁殖していたのであろう。これまで、最大 3 つがいが繁殖した記録がある。しかし北半分が盛り土され、公園化され、また太陽光パネルが並べられた。2016 年までは繁殖が成功していたが、2017 年、2018 年には繁殖が成功していない。当干拓地は立ち入りが制限されており、カメラマンの心配は無いが、近年樹木が増えて、他の猛禽が入り込むようになっている。

北九州の響灘干拓地では 2017 年まで継続して繁殖している模様である。

しかし、それ以外では継続した繁殖が見られない。

サロベツ周辺のチュウヒの繁殖状況と保全上の課題

長谷部真

(NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク)

チュウヒは国内唯一草原で繁殖する中型のタカの仲間です。沖縄を除く全国に繁殖地がありますが、本州東北以南の繁殖地は少なく、開発等で減少傾向にあります。全国のつがい数は100前後と言われていますが、繁殖地の多くは東北北部と北海道に集中しています。

サロベツ周辺のチュウヒは4月から10月まで滞在する夏鳥で、湿原、海岸草原やサロベツ川、天塩川、声間川などの河川沿いや、大沼、兜沼、ペンケ沼、パンケ沼などの湖沼沿いに生息します。牧草地を含む草原で小鳥、ネズミ類、カエルなどを捕食し、主にササ原の地上に巣を作ります。サロベツ周辺で2017年に20-26巣（日本野鳥の会調査）、2018年に23-29巣（日本野鳥の会・環境省調査）が確認され、繁殖成功率は29-31%でした。巣のうち、国立公園内は約3割で、残りは開発に向いていない河川や湖沼沿い、未開発原野、耕作放棄地にありました。

2018年は農業開発（4か所）、河川開発（1か所）、その他（1か所）が行われた合計6か所で、チュウヒが途中で繁殖を中止するか姿が見られなくなりました。チュウヒは牧草地を採餌環境として利用することがあるため、牧草地内における通常の農作業については気にしないようですが、繁殖地に隣接する農地で工事を行うと繁殖の中止、繁殖地内（巣とその周辺）で工事を行うと繁殖地の喪失の恐れがあります。

チュウヒの繁殖地のうち約7割は国立公園などの保護区以外にありました。2018年に繁殖失敗を確認した12か所の50%に当たる6か所では上記の開発の人為的影響による可能性がありました。サロベツで種の保存法の指定種となったチュウヒを保全するためには、これらの開発事業との折り合いが不可欠です。保全案として、行政などの開発事業者に対して繁殖状況の情報共有を行い、チュウヒの存在を意識してもらうこと、繁殖期（4月～8月）の工事を避けること、開発予定地がチュウヒの繁殖地そのものである場合に開発区域から除外してもらうこと、が挙げられます。